

大迫力！仏像曼荼羅の宇宙へようこそ

国宝 東寺講堂の諸像たち（8体）
平安時代 承和6年(839) 京都・東寺

京都・東寺の講堂には、21体の仏像が並び、「立体曼荼羅」をかたちづいています。空海は、金剛界曼荼羅の仏たちを基本に、独自の曼荼羅を考えだし、それを仏像で立体的に表現したのです。展覧会では、その中から8体の仏像がやってきます。大きさ、おこった顔ややさしい顔、さまざまなポーズなど、迫力のある仏像曼荼羅の宇宙を、ぜひ感じてください。

■展示期間 7月20日(水)～9月25日(日)の全期間



photo: (株) ロケットジャパン 新聞重智

東寺講堂の立体曼荼羅の配置と今回やってくる8体



空海と密教美術展

2011年7月20日(水)～9月25日(日) 東京国立博物館 平成館〔上野公園〕

休館日:月曜日(ただし8月15日、9月19日は開館)

開館時間:午前9時30分～午後5時(金曜日は午後8時まで、土・日・祝日は午後6時まで開館)

※入館は閉館の30分前まで

主催:東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション

特別協力:総本山仁和寺、総本山醍醐寺、総本山金剛峯寺、総本山教王護国寺(東寺)、総本山善通寺、遺迹本山神護寺

協力:真言宗各派総大本山会、南海電気鉄道

協賛:あいおいニッセイ同和損保、きんでん、大日本印刷、トヨタ自動車、非破壊調査



展覧会ホームページ www.kukai2011.jp

東京国立博物館 www.tnm.jp

「空海と密教美術」展ジュニアガイド 制作:東京国立博物館、NHK デザイン:SMITH

観覧料

一般 1,500円 (1,200円)

大学生 1,200円 (900円)

高校生 900円 (600円)

中学生以下無料

()内は20名以上の団体料金

※障がい者とその介護者1名は無料です。

入館の際に障がい者手帳をご提示ください。

博物館でのルール

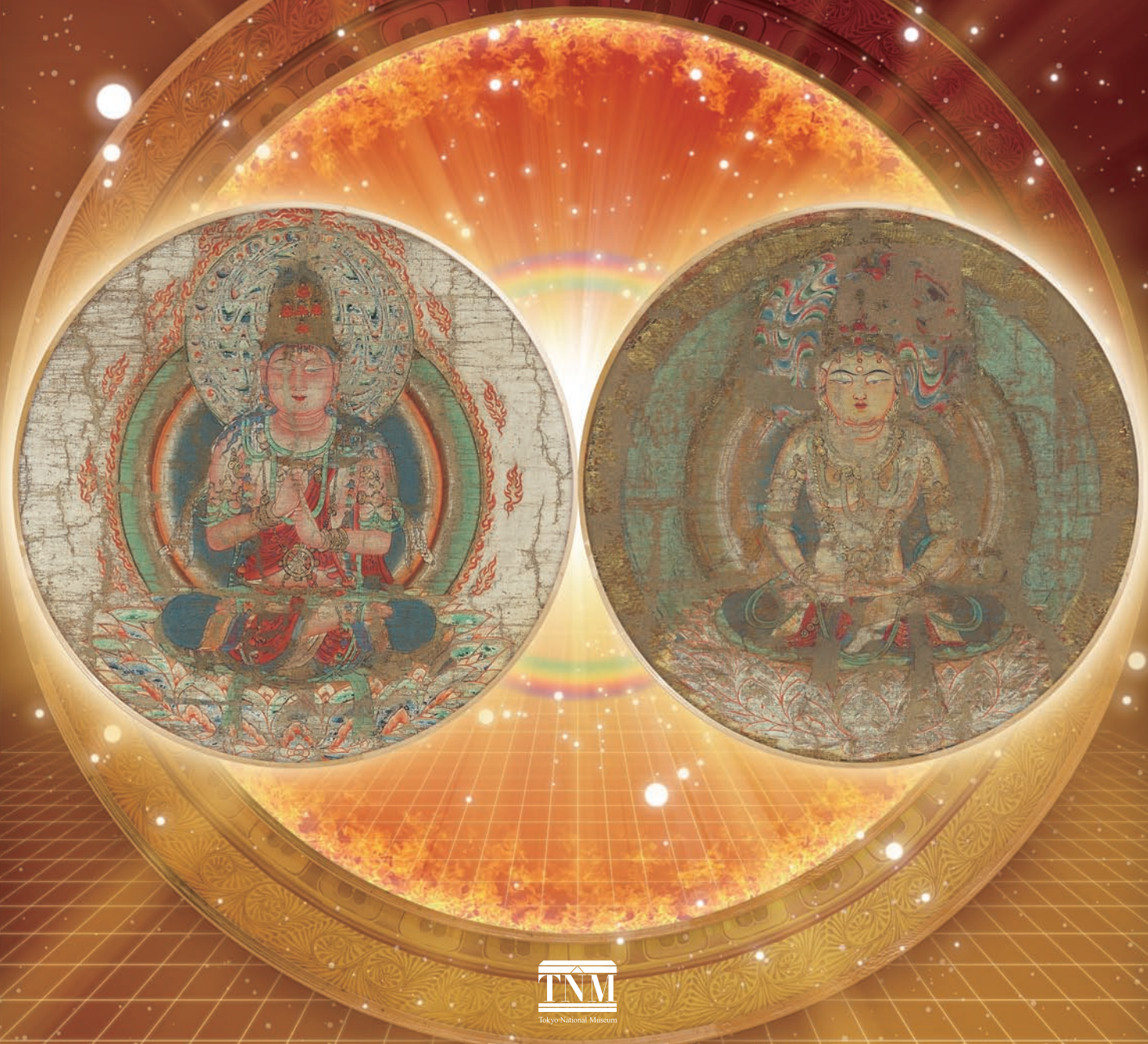
★ ゆっくり歩いて静かに見よう

★ 作品にインクがつかないようにメモはえんぴつで

★ 作品にはさわらず目で楽しもう

空海と密教美術展

ジュニアガイド



東京国立博物館

2011年7月20日(水)～9月25日(日)

このジュニアガイドは、「空海と密教美術」展の鑑賞の手引きとして、小学校高学年から高校生までを対象に作成しました。

国宝 両界曼荼羅図(西院曼荼羅)部分 左:金剛界 右:胎藏界 (平安時代9世紀/京都・東寺)



曼荼羅って、何だろう？



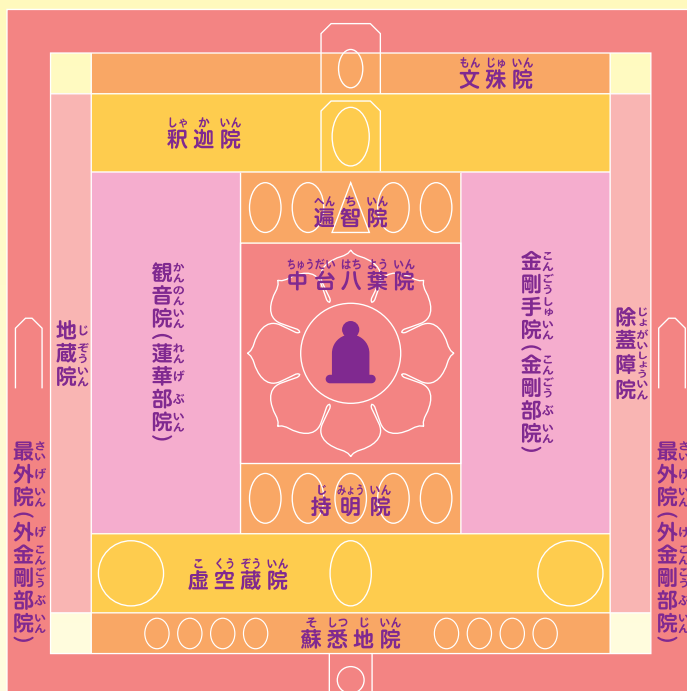
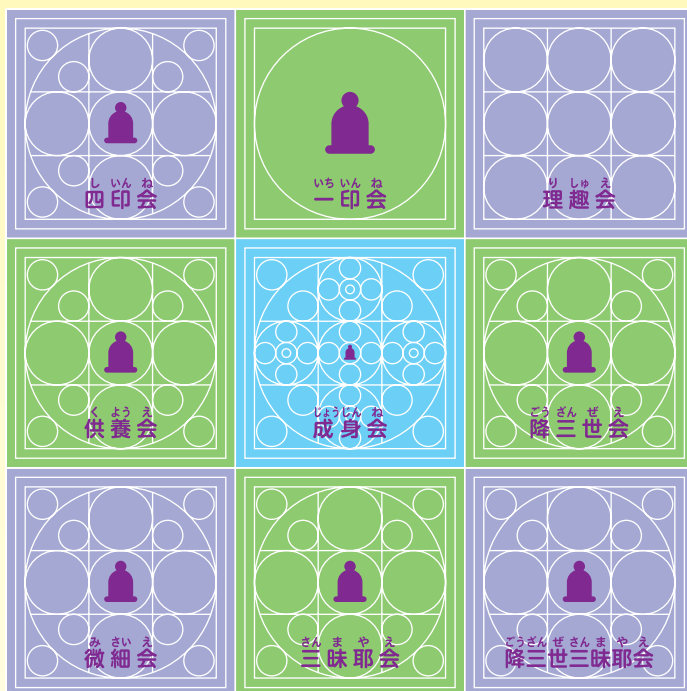
曼荼羅は仏教のことばで、「集まったもの」「満ち足りていること」「聖なる空間」などの意味があります。とくに仏教の美術では、たくさんの仏が規則正しく並んだ絵のことを、曼荼羅とよんでいます。曼荼羅は、複雑なお経の内容を絵にした、いわば「見るお経」です。真言密教を日本に広めた、弘法大師とも呼ばれる空海も、密教のおしえを絵によって理解することの大切さを述べています。曼荼羅にはいろいろな種類がありますが、胎蔵界曼荼羅と金剛界曼荼羅の2つの絵からなる「両界曼荼羅」は、その代表です。胎蔵界曼荼羅は『大日経』、金剛界曼荼羅は『金剛頂経』というお経を絵でしめたものです。もともと別々であった2つの曼荼羅が1つのセットとなり、空海はさらにその考えを発展させ、この2つの界(両界)が、大日如来という仏を中心とした密教の宇宙を表すと考えました。両界曼荼羅はお寺のお堂の壁にかけられ、その前で大事な儀式が行われました。



これが両界曼荼羅のしくみだ！



だいにちによらい
=大日如来



◎金剛界曼荼羅

金剛とはダイヤモンドのことで、大日如来の知恵が、こわれることのない強いものであることを表しています。9つのグループに分けられていて、右上の「理趣会」以外すべて中心が大日如来。まわりをとりかこむ仏たちとの間では、大日如来の知恵が、内から外、外から内へと、コンピュータの回路のように、たえまなく動き続けているのです。□と○の組み合わせが特徴的です。

◎胎蔵界曼荼羅

大日如来を中心に、12のグループで構成されています。すべての仏は大日如来から生まれるのであり、それとおなじように、人々の心の中にある(胎蔵する)「さとり」を開く種を、大日如来が守り育てていくようすを表しています。金剛界曼荼羅では、大日如来の知恵が規則ただしく、縦横ななめに動いているのに対し、こちらでは太陽の光のように、やさしく力強く、中心から世界を照らしています。



必見! 展覧会ではほかにもすごい曼荼羅が



金剛界



胎蔵界



金剛界



胎蔵界



金剛界



胎蔵界

国宝 両界曼荼羅図 (高雄曼荼羅)

平安時代9世紀 京都・神護寺

空海が中国・唐より持ち帰った両界曼荼羅を手本として描いたもので、絵の部分だけでも、縦横4メートルをこえます。日本で作られた中でもっとも古い両界曼荼羅です。

■展示期間 胎蔵界曼荼羅 …… 7月20日(水)～7月31日(日)
金剛界曼荼羅 …… 8月 2日(火)～8月15日(月)

重要文化財 両界曼荼羅図 (血曼荼羅)

平安時代12世紀 和歌山・金剛峯寺

平 清盛が描かせたといわれ、胎蔵界の中心の大日如来の冠は、清盛の血をまぜて絵の具をぬったとの言いつたえがあることから、「血曼荼羅」ともよばれています。この絵も大きさは4メートル!

■展示期間 胎蔵界曼荼羅 …… 8月16日(火)～9月 4日(日)
金剛界曼荼羅 …… 9月 6日(火)～9月25日(日)

重要文化財 板彫両界曼荼羅

中国・唐時代8世紀 和歌山・金剛峯寺

両界曼荼羅を板に彫りあらわした作品。縦が27センチほどと小さいのですが、曼荼羅の世界が、とても細かく彫刻されています。

■展示期間 7月20日(水)～9月25日(日)の全期間



空海って、どんな人？



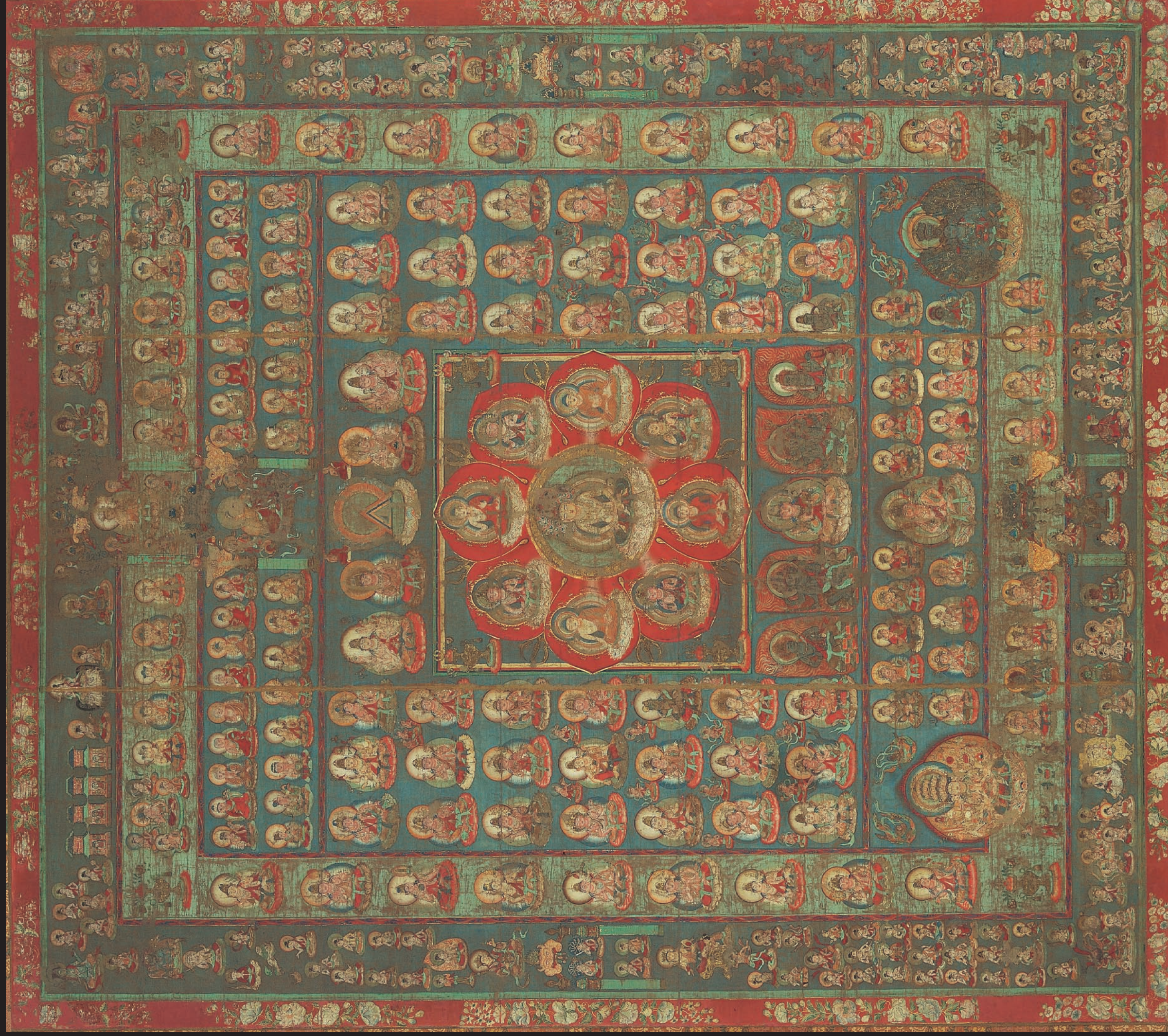
弘法大師空海は宝亀5年(774)、現在の香川県善通寺市で生まれました。小さいころからいろいろな学問を勉強し、24歳のときに仏教の道にすすむことを決意します。延暦23年(804)には中国・唐にわたり、2年という短い間に、新しい仏教であった密教を学んで、日本に帰国しました。日本に戻ってからの空海は、密教の教えをさらに発展させてゆき、その教えは「真言密教」として、多くの人々に受け入れられることとなったのです。密教の教えは奥が深く、絵や仏像などの「かたち」を使って理解することが重要でした。空海も密教とともに、両界曼荼羅などの絵や仏像・書物・道具などを持ち帰っています。日本に戻ってから各地に密教の道場をひらいて、かずかずの絵・仏像・道具を作らせ、書物を書きました。空海は今も、和歌山県の高野山金剛峯寺の奥の院で生き続け、人々を見守っていると信じられています。この展覧会では、そうした空海にかかわる美術と歴史を紹介しています。



重要文化財 弘法大師像 (部分)

鎌倉時代13世紀
東京・西新井大師總持寺

■展示期間 8月2日(火)～8月28日(日)



◎ 体からだをくねらせているほとけ仏

右の仏は馬に乗っています

◎ おもしろい顔 かお

くび ぼとけ
首だけの仏も

◎ おもしろい顔をした魚たち

くび ぼとけ
首だけの仏も

◎ おに かお もん ほとけ 鬼の顔をした門。仏たて

の毛は、へびでしようか

みか

◎やさしくほえんだ表情
ひょうじょう

金属の道具をもっています

西界茶羅圖

だら茶羅)のうち

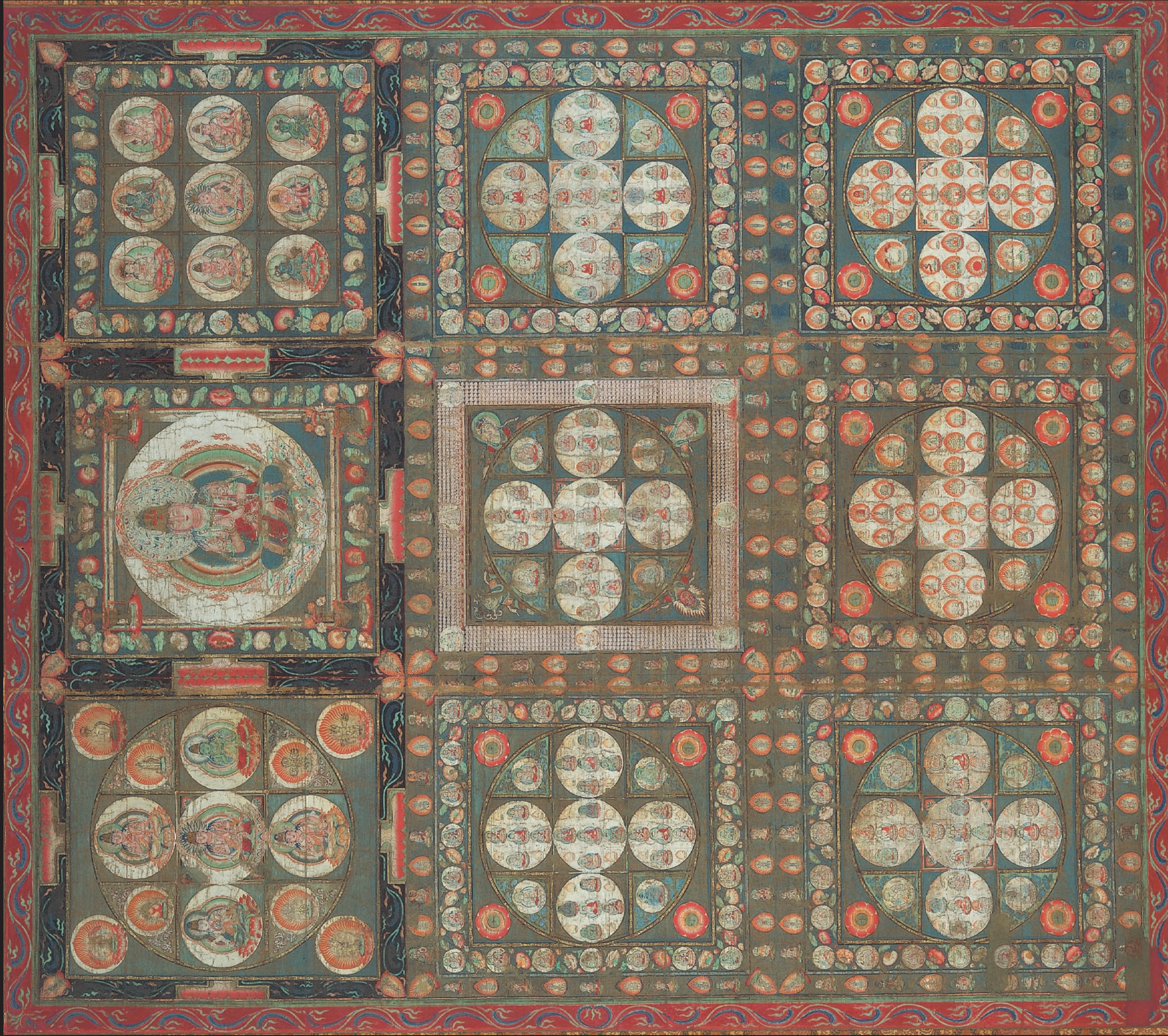
胎蔵界
たいぞうかい

いろいろのキツキツの面影を
りようかいまんだら

上下一心

てんじきかん
展二期間：7月20日(水)～8月21日(日)

てんじきかん
展二期間：7月20日(水)～8月21日(日)



◎ この仏は体が緑色。ハスの花の上
にすわっています



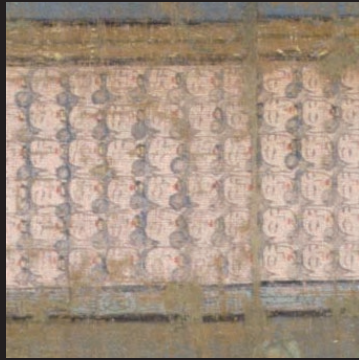
国宝

◎ きれいな花もたくさん。花壇には
リボンが



両界曼荼羅図(西院曼荼羅)のうち

◎ とっても小さいけど、みんな仏
なんです



金剛界

◎ これはハープ (たてごと)



平安時代9世紀

◎ 仏を道具で表すこともあります
中央の大日如来は、塔に姿身



色つきの両界曼荼羅としてはもっとも古く、色もたいへん鮮やかに残っています。きれいな花、牛や魚などの動物もいるよ。探してみよう。
展示期間：8月23日(水)～9月25日(日)